

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成28年12月1日(2016.12.1)

【公開番号】特開2015-57437(P2015-57437A)

【公開日】平成27年3月26日(2015.3.26)

【年通号数】公開・登録公報2015-020

【出願番号】特願2014-255880(P2014-255880)

【国際特許分類】

A 6 1 K 47/48 (2006.01)

A 6 1 K 47/40 (2006.01)

A 6 1 K 9/08 (2006.01)

A 6 1 K 31/423 (2006.01)

A 6 1 K 31/47 (2006.01)

A 6 1 P 27/02 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 47/48

A 6 1 K 47/40

A 6 1 K 9/08

A 6 1 K 31/423

A 6 1 K 31/47

A 6 1 P 27/02

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年10月11日(2016.10.11)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

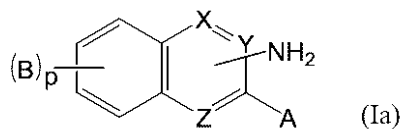
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

式 (I a)

【化 1】



の化合物または薬学的に受容可能なその塩であって、ここで、

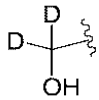
X、Y、および Z は、それぞれ独立して N、C H または該 N H₂ が結合した C であり、
X、Y、および Z のうちの 1 つが N であり、

p は 0、1、2、または 3 であり、

B はハロゲン、ヒドロキシル、カルバモイル、またはアミノであり、

A は、

【化 8】



であり、

D は、非分枝鎖低級アルキルである、化合物または薬学的に受容可能なその塩、ならびに

- シクロデキストリンスルホブチルエーテルまたは薬学的に受容可能なその塩から選択されるキャリア

を含む局所眼用水溶液。

【請求項 2】

式 (I a) の化合物が、0.01% w/v ~ 1.0% w/v で存在する、請求項 1 に記載の眼用溶液。

【請求項 3】

式 (I a) の化合物が、0.01% w/v ~ 0.5% w/v で存在する、請求項 1 に記載の眼用溶液。

【請求項 4】

前記薬学的に受容可能な - シクロデキストリンスルホブチルエーテルの塩が、- シクロデキストリンスルホブチルエーテルナトリウム塩である、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の眼用溶液。

【請求項 5】

前記 - シクロデキストリンスルホブチルエーテルナトリウム塩が、0.01% w/v ~ 30% w/v で存在する、請求項 4 に記載の眼用溶液。

【請求項 6】

前記 - シクロデキストリンスルホブチルエーテルナトリウム塩が、5% w/v ~ 25% w/v で存在する、請求項 5 に記載の眼用溶液。

【請求項 7】

前記 - シクロデキストリンスルホブチルエーテルナトリウム塩が、9.5% w/v ~ 20% w/v で存在する、請求項 5 に記載の眼用溶液。

【請求項 8】

前記 - シクロデキストリンスルホブチルエーテルナトリウム塩が、9.5% w/v で存在する、請求項 5 に記載の眼用溶液。

【請求項 9】

前記溶液が、5.5 ~ 8.5 の pH である、請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の眼用溶液。

【請求項 10】

前記溶液が、6.5 ~ 7.5 の pH である、請求項 9 の眼用溶液。

【請求項 11】

さらにバッファーを含む、請求項 1 ~ 10 のいずれか 1 項に記載の眼用溶液。

【請求項 12】

前記バッファーが、リン酸バッファーである、請求項 11 に記載の眼用溶液。

【請求項 13】

さらに保存剤を含む、請求項 1 ~ 12 のいずれか 1 項に記載の眼用溶液。

【請求項 14】

さらに抗酸化剤を含む、請求項 1 ~ 13 のいずれか 1 項に記載の眼用溶液。

【請求項 15】

黄斑変性を処置するための請求項 1 ~ 14 のいずれか 1 項に記載の局所眼用溶液。

【請求項 16】

処置される黄斑変性が萎縮型AMDである、請求項15に記載の眼用溶液。

【請求項17】

処置される黄斑変性が、萎縮型AMDに続発する地図状萎縮である、請求項15に記載の眼用溶液。

【請求項18】

処置される黄斑変性が滲出型AMDである、請求項15に記載の眼用溶液。

【請求項19】

処置される黄斑変性がシュタルガルト病である、請求項15に記載の眼用溶液。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

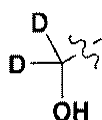
【訂正対象項目名】0017

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0017】

【化2】



であり、Dは、非分枝鎖低級アルキルである。具体的には、WO2006/127945の段落(00027)の化合物Aおよび薬学的に受容可能なその塩は、本発明において用いられ得る。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

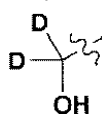
【訂正対象項目名】0020

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0020】

【化5】



であり；そして、Dは、非分枝鎖低級アルキルであり；そして、

具体的には、WO2006/127945の段落(00046)の化合物BおよびC、および薬学的に受容可能なその塩は、本発明において用いられ得る。